

東京都足立区で「里山」をテーマに分譲事業 無垢材を多用し五感に訴える住宅を実現

ポラスグループの中央住宅は、東京都足立区において全41棟からなる戸建分譲住宅プロジェクト「東京サトヤマ森区・TX六町」の販売を開始した。「里山」をテーマとしながら、五感に訴える住宅を訴求していく。

「東京サトヤマ森区・TX六町」は、東京メトロ千代田線の北綾瀬駅から徒歩16分、つくばエクスプレスの六町駅から徒歩17分の場所に位置し、3つの街区からなる全41棟のプロジェクトだ。

コンセプトは「里山」。中央住宅の戸建分譲設計本部営業企画設計二課の山下隆史係長は、「都内で里山のように緑や自然を身近に感じる環境を創造するための提案を盛り込んだ」と語る。

それぞれの敷地内に季節を感じることができる植物を植栽してだけでなく、天然の石積みやロックガーデンなど、自然を感じる素材を外構部に多用していく。

また、街区内にクルドサック（回転道路）を設けるほか、住民同士のコミュニティ形成を促すような外構計画を具体化する。

室内にも里山 木質材料の機能性にも注目

さらに、「外部空間だけでなく、室内でも自然を身近に感じる配慮を施した」（戸建分譲設計本部営業企画設計二課・野村壮一郎課長）という。

具体的には、「サトヤマリビング」として、床やカウンターなどに無垢材を多用する。無垢材を利用することで、日常生活において五感で自然を感じる住環境を提案する。無垢材挽き板化粧フロアに使用した銘木を無駄なく利用したフリーボードをカウンターや棚に活用している。

オーク、ブラックチェリー、ハードメイプル、ブラックウォルナットという4種類の樹種を用意し、それぞれの住戸のインテリアデザインなどにあわせて使い分ける。

「MATSU(松)」、「KIRI(桐)」、「SUGI(杉)」、



無垢材を用いたフロアやカウンターなどで構成する「サトヤマリビング」。五感で自然を感じる住環境を演出



木質材料の機能性にも着目したコンセプトルーム。写真は松の断熱性やクッション性を活かして、「座」の暮らしを提案する「MATSU」

「KAMI(紙)」という4つのコンセプトルームも提案する。「デザイン面でそれぞれの素材の特徴を活かすだけでなく、機能面でも素材の特性に配慮した」（山下係長）。

例えば「MATSU」では、暖かく断熱性があり、クッション性にも優れているという松の特徴を活かして、椅子ではなく「座」の暮らしを提案。

「KIRI」については、桐の軽いという特徴に着目し、気軽にアレンジができる棚を設けた多機能空間を具体化していく。軽い桐を棚に利用することで、女性でも棚の位置などを変更できる。

「SUGI」では、杉独特の香りによってフィトンチッド効果を室内にもたらす。「KAMI」では、和紙の畳と調湿性に優れた壁材を用いて、心地よく快適な空間を演出していく。

前出の4種類の樹種を用いた「サトヤマリビング」と4つのコンセプトルームを組み合わせることで、全住戸で五感を通して自然を感じる住環境を実現していく方針だ。

販売価格は、3630万円～4580万円。